

教育委員会

(予 算 額) (決 算 額)

総務課

I 事務局費

1	教育広報事業	17,471	16,872	教育委員会の広報活動を推進するため、県域テレビ・ラジオで教育番組を制作・放送するとともに、教育広報紙の発行を行った。
---	--------	--------	--------	--

II 教育連絡調整費

1	教育ネットワーク・ICT環境整備事業	1,802,764	1,732,422	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; display: inline-block;"> 翌年度繰越額 3,043 </div>
2	被災児童生徒就学支援事業	180	134	
3	ICT活用教育推進プロジェクト事業	168,188	167,240	授業でのICT活用による分かりやすい授業の実現と子供たちの情報活用能力の育成を図るため、教員研修を2回実施した。また、教員用パソコンの維持管理を行った。
4	これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成事業	6,418	5,012	専門性を必要とする業務に従事する教職員の知識、技能を向上させるとともに業務の負担軽減を図るため、退職教員を登用した。

(前年度繰越分)

1	教育ネットワーク・ICT環境整備事業	393,174	353,210	県立学校の普通教室に無線LANを整備した。
---	--------------------	---------	---------	-----------------------

III 中学校教育振興費

1	県立中学校一般運営費事業	48,925	47,940	県立中学校5校の管理運営を行った。
---	--------------	--------	--------	-------------------

IV 全日制高等学校管理費

1	全日制高等学校一般運営費事業	1,390,021	1,371,644	全日制高等学校29校、分校4校の管理運営を行った。
---	----------------	-----------	-----------	---------------------------

V 定時制高等学校管理費

1 定時制高等学校一般運営
費事業 90,205 89,262

定時制高等学校9校の管理運営を行った。

VI 高等学校教育振興費

1 全日制高等学校遠距離通
学費等補助金事業 4,211 3,623

特別地域（山間・へき地）から通学する県立全日制高等学校生徒に対し、通学費等の一部を補助することにより修学の機会均等を図った。

〔補助対象者数及び補助金額〕

区 分	人 数（人）	補助金額
下宿	8	696
交通機関	56	2,710
単車・自転車	27	217
計	91	3,623

2 教育設備等整備事業 339,068 232,195
{ 翌年度繰越額
 105,304

高等学校の産業教育設備、理科に係る設備の充実を図るため、実験・実習用備品の整備を行った。また、情報処理教育の充実を図るため、情報機器の設備更新等を行った。

VII 学校建設費

1 校地等整備事業 3,602 3,602

高等学校1校のテニスコート整備設計を行った。

・海南高校 テニスコート整備設計

2 大規模改造事業 916,022 878,796

高等学校3校において、築後20年以上の老朽建物の大規模改造工事を行った。

・和歌山高校 第4-1棟（普通教室棟） 1,870㎡

・和歌山工業高校 第62棟（同窓会館棟） 552㎡

・海南高校 第35棟（普通教室棟） 259㎡

3 校舎等増改築事業 30,986 30,986

高等学校1校において、武道場の新築設計を行った。

・熊野高校 武道場新築設計

（前年度繰越分）

1 校地等整備事業 46,000 46,000

高等学校1校の運動場整備工事を行った。

・熊野高校 運動場整備工事

2 大規模改造事業 250,000 71,058

高等学校1校において、築後20年以上の老朽建物の大規模改造工事を行った。

・和歌山北高校北校舎 体育館・武道場 2,994㎡

VIII	特別支援学校費			
1	特別支援学校一般運営費事業	798,747	793,279	特別支援学校11校の管理運営を行った。
IX	特別支援学校教育振興費			
1	特別支援学校教育設備等整備事業	60,653	60,653	特別支援学校の教材の整備等を行った。
X	特別支援学校建設費			
1	特別支援学校校舎等整備事業	449,795	385,691	特別支援学校において、教室棟新築工事やプール天窓改修工事を行った。 ・紀伊コスモス支援学校 教室棟新築 664㎡ ・みはま支援学校 プール天窓改修工事
2	南紀・はまゆう支援学校再編整備事業	670,493	588,131	
	(前年度繰越分)			
1	特別支援学校校舎等整備事業	68,607	56,460	特別支援学校において、教室棟新築工事を行った。 ・紀伊コスモス支援学校 教室棟新築 664㎡
	教職員課			
I	教育連絡調整費			
1	これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成事業	2,271	946	将来管理職になっていく中堅教員を対象に、学校を管理運営する資質能力を育成するミドルリーダー育成研修、マネジメント力向上研修を開催するとともに、公立学校運営基礎資格試験を実施した。
	人権教育推進課			
I	教育連絡調整費			
1	人権教育推進事業	2,104	805	同和問題をはじめとした様々な人権問題の解決を目指し、学校における人権教育の推進を図るため、教職員の研修、学校訪問及び指導者用資料等の刊行等を行った。
II	社会教育総務費			

1	人権教育総合推進事業	10,660	6,374	人権問題に対する理解と認識を深め、差別意識の解消を図るため、人権問題に関する教育・啓発事業補助、保護者学級開設事業補助・委託、識字教育推進事業、人権教育指導者研修講座、人権教育地方別研修会、指導者用資料及び学習教材等の作成を行った。
2	学びのセーフティネット事業	21,472	19,129	年齢・国籍に関係なく、学び直しを希望する社会人等に学習機会を提供するため、定時制高等学校4校できのくに学びの教室を開設した。 ・受講者数 118人

生涯学習課

I 教育連絡調整費

1	奨学のための給付金（公立分）事業	305,654	296,317	授業料以外の教育費負担を軽減するため、高校生等がいる低所得世帯に対して「奨学のための給付金」の支給を行った。（2,517件）
2	和歌山県大学生等進学給付金事業	93,858	90,109	意欲と能力が高い者が、経済的な事情に左右されず、大学等に進学して学び、将来の地域社会の担い手となるよう、低所得世帯の学生に対して「和歌山県大学生等進学給付金」の支給を行った。（150人）
3	きのくにコミュニティスクール推進事業	1,459	879	コミュニティ・スクールの推進体制の構築や取組の充実に向け、県内8箇所で開催したフォーラムや研修会を実施した。（フォーラム76人、研修会7回計302人）

II 社会教育総務費

1	生涯学習推進の基盤整備事業	628	559	「きのくに学びの日」（11月1日）及び「きのくに学び月間」（11月）を広く県民に周知し、県民の教育に対する関心を高め、生涯にわたる学びの気運を醸成するために、セミナー・企画ゼミを実施した。
2	地域ふれあいルーム推進事業	11,725	8,292	放課後や週末等に学校の余裕教室等を活用し、地域住民との交流活動等の取組を実施する拠点として、「地域ふれあいルーム」を開設し、大人と子供の交流活動を推進した。 ・地域ふれあいルーム 放課後子ども教室・土曜日等子ども教室 14市町69箇所（和歌山市を除く） ・いきいき交流教室（県立特別支援学校） 10校10箇所
3	きのくに共育コミュニティ事業	8,673	5,813	きのくに共育コミュニティ研修会や県内小・中学校を核とする「共育ミニ集会」を開催するとともに、学校支援ボランティア活動を推進した。また、県内2市町（2本部）に地域共育コミュニティ本部を設置し、学校・家庭・地域が連携して子供達の育ちを支える体制づくりを行った。
4	子どもの居場所づくり事業	13,847	12,900	放課後等に一人で過ごさなければならない小学校4年生から6年生等に対し、学習支援や大人とのふれあいの機会を定期的・継続的に提供し、学習習慣の定着やコミュニケー

				<p>シヨン力の向上等を支援する取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・21市町村47箇所（和歌山市を除く。） ・新型コロナウイルスの感染拡大のため3市町9箇所については中止。 <p>シンポジウムや専門講座を通して家庭教育について啓発を行い、家庭教育支援の関係者の資質向上と人材育成を行った。（シンポジウム145人、専門講座3回計104人）</p>
5	訪問型家庭教育支援事業	5,115	4,817	
III 視聴覚教育費				
1	文化情報センター運営事業	15,229	14,770	<p>県民カレッジや様々な事業の情報提供等を行うとともに、外部コーディネーターによる優れた音楽や文化の発信により、県の生涯学習推進の拠点施設として県民の幅広い生涯学習活動の促進を図った。</p>
(前年度繰越分)				
1	文化情報センター運営事業	27,899	27,775	<p>メディア・アート・ホールの音響改修工事を行った。</p>
IV 図書館費				
1	蔵書充実事業	64,874	64,842	<p>県の中核図書館として、広く県民の生涯学習ニーズに応えるため、課題解決や子供の読書推進に必要な資料の充実を図った。また、和歌山県に関する資料の収集に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度末蔵書冊数 1,049,227冊 ・令和2年度末蔵書冊数 1,063,719冊
2	南葵音楽文庫事業	8,534	8,534	<p>寄託された紀州徳川家ゆかりの南葵音楽文庫を保管・整備するとともに、文庫を活用した啓発・普及活動を行った。</p>
スポーツ課				
I 体育振興費				
1	ゴールデンキッズ発掘プロジェクト事業	9,510	7,832	<p>各種の体力測定により優れた素質を有する小学生を発掘し、発達段階に応じた様々な育成プログラムを実施した。令和2年度の体力測定会により、15期生32人を認定するとともに14期生7人を追加認定した。</p>
2	国民体育大会・近畿ブロック大会派遣事業	5,027	1,142	<p>鹿児島県で開催が予定されていた第75回国民体育大会が延期し、第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会が中止となった。唯一開催された第76回国民体育大会近畿ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技に監督・選手21名を派遣した。</p>
3	和歌山県市町村対抗ジュ	21,727	18,460	<p>スポーツの振興と青少年の健全育成を図るとともに、県及び各市町村の活性化に資する</p>

	ニア駅伝競走大会開催事業			
4	広域スポーツセンター育成事業	1,598	1,474	
5	三四六総合運動公園管理運営事業	23,453	23,453	
6	マスターズスポーツ推進事業	41,568	41,568	
7	スポーツキャンプ誘致の推進事業	81,084	67,033	
8	トップアスリート育成事業	127,355	85,133	
9	コーチスキルアップ事業	10,885	7,531	
10	スポーツ医・科学サポート事業	14,515	12,477	
11	東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレー運営事業	80,014	80,014	
12	ハイスクール強化校指定事業	21,377	9,864	
13	ジュニアハイスクール指定事業	6,110	3,156	

ため、第20回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会を開催した。

地域のスポーツ活動の核となる総合型地域スポーツクラブの支援・普及を図るため、（公社）県体育協会等に「きのくに広域スポーツセンター事業」を委託、実施した。田辺市が運営する「三四六総合運動公園」の管理運営費のうち、旧南紀スポーツセンターに係る経費について、田辺市に交付した。

ワールドマスターズゲームズ2021関西の1年延期に伴い、本県開催競技種目の要項等を更新するとともに、公式ホームページを開設した。

女子ラグビー日本代表を含め、トップレベルチームの合宿を4件受け入れた。

国民体育大会や国際大会等で活躍できる競技者の育成により、競技力の向上を図った。

トップコーチ招聘による各種研修会の実施や県内指導者の全国大会等競技会への派遣研修等により、指導者の資質の向上を図った。

各専門機関と連携し、県内競技団体の指導者や競技者にスポーツ医・科学面からのサポートを実施した。

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーの1年延期に伴い、関係市町及び関係機関とルート等の見直しや、開催に向けた準備を行った。

本県高校生の競技力向上のために84運動部を指定し、実施する事業に対し支援した。

本県中学生の競技力向上のために50運動部を指定し、実施する事業に対し支援した。

II 体育施設費

1	県立体育館・武道館維持運営管理事業	82,007	78,305	
2	和歌山ビッグ愛・ビッグホエール・ビッグウエーブ維持運営管理事業	408,333	400,810	

県立体育館及び県立武道館の管理を指定管理者である（公財）和歌山県スポーツ振興財団へ委託した。

・年間利用者数 50,321人

和歌山ビッグ愛、和歌山ビッグホエール及び和歌山ビッグウエーブの管理を指定管理者である（公財）和歌山県スポーツ振興財団へ委託した。

・年間利用者数 147,532人

文化遺産課

I 文化振興費

1	文化振興事業	6,077	2,031 〔翌年度繰越額〕 3,581	芸術鑑賞の機会が少ない地域の子供達に、一流の芸術に直接ふれる機会を提供するため青少年劇場小公演を開催した。また、県立博物館施設において、入館料等のキャッシュレス決済を導入した。 ・青少年劇場小公演回数 7回
2	挑戦！わかやまの歴史事業	5,183	2,250	和歌山の歴史や文化財に関するクイズ大会については、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催を中止した。また、県立博物館において、子供達を対象とした「けんぱく・こどもゼミ」の運営を行った。 ・けんぱく・こどもゼミ修了生 9人

II 文化財保護費

1	文化財保護育成補助事業	50,000	38,533 〔翌年度繰越額〕 11,259	国・県指定文化財及び埋蔵文化財の保存と活用を図るため、所有者等が実施する文化財保存事業に対して助成を行った。 ・建造物、美術工芸品、記念物の保存修理等に係る補助金 36件 (国指定文化財：21件、県指定文化財：15件) ・発掘調査に係る補助金 10件
2	世界遺産管理事業	13,691	12,089	自然災害や経年劣化等による参詣道・建造物等の復旧及び周辺整備並びに参詣道の維持管理等の事業に対して23件の補助を行った。
3	岩橋千塚古墳群追加指定事業	18,475	18,179	平成29年度及び30年度に作成した航空レーザー測量図を基に、追加指定候補地にある井辺1号墳周辺の地形測量及び発掘調査を行い、追加指定に必要な資料の収集を行った。
4	旧県会議事堂整備事業	47,044	46,876	旧県会議事堂の敷地整備と周辺の魅力向上を図るため、敷地内に遺る根来寺遺構の展示施設整備を進め、令和2年11月21日にグランドオープンし、全整備事業を完了した。
5	未来につなげる文化財次世代継承事業	20,061	15,606	災害や盗難に備え、重要文化財建造物や仏像等のデータベース化を進めるとともに、仏像防犯設備の設置事業6件及び登録有形文化財保存修理事業6件に対し補助を行った。また、近代文化遺産の保存のための所在調査等を行った。
6	特別史跡岩橋千塚古墳群等保存整備・活用事業	43,689	18,104 〔翌年度繰越額〕 25,035	天王塚古墳への連絡道路の設置工事を実施するとともに、園内の崩壊危険古墳の整備及び樹木伐採など、特別史跡岩橋千塚古墳群の保存と活用のための整備を進めた。
(前年度繰越分)				
1	文化財保護育成補助事業	11,458	11,365	国指定文化財の保存と活用を図るため、所有者等が実施する文化財保存事業に対して助成を行った。

				・建造物、記念物の保存修理等に係る補助金 6件 天王塚古墳への連絡道路の設置工事を実施した。
2	特別史跡岩橋千塚古墳群 等保存整備・活用事業	22,131	22,131	
III 美術館費				
1	展覧会開催事業	38,126	37,029	近代美術館において、国内外の作家の優れた美術品を鑑賞する機会を提供するための企画展を3回、美術館所蔵の美術品を広く公開する常設展（コレクション展・特集展示）を4回開催した。 ・年間入館者数 24,216人
2	芸術に親しもう！事業	6,532	6,532	「なつやすみの美術館10 あまたの先日ひしめいて今日」展で、県ゆかりの若手の芸術家の活動を紹介するとともに、来館が困難な紀中地方の児童・生徒のために、おでかけ美術館として、ギャラリーなかがわで展示を行った。 ・おでかけ美術館 会期：令和2年9月10日～10月25日、入館者数：590人
3	大規模展覧会「近現代版画の名作展」（仮称）事業	19,512	19,512	近代美術館開館50周年記念事業として、近代日本における版画の歴史を、明治の印刷物から現代版画までの流れを追って紹介する「もうひとつの日本美術史－近現代版画の名作2020」展を開催した。 ・会期：令和2年9月19日～11月23日、入館者数：7,714人
IV 博物館費				
1	展覧会開催事業	10,385	9,831	博物館において、和歌山県の歴史に関わる県内外の優れた文化財をテーマに即して調査研究し、歴史と文化について県民の認識を深めるための特別展を2回、企画展を6回開催した。また、県民の生涯学習等に資するため、本県の原始から近現代に至る歴史と文化を紹介する常設展示を行った。 ・年間入館者数 19,033人
V 紀伊風土記の丘管理費				
1	展示・調査事業	339	255	紀伊風土記の丘において、広く県民に歴史や民俗に対する関心を高めてもらうため、調査研究の成果をもとに企画展を3回開催した。また、常設展を通年開催した。 ・年間入館者数 3,560人
2	ふるさと紀の国ふれあい 体験事業	1,359	1,309	郷土の歴史・文化に対する関心を高めるため、小学生から大人を対象に各種催し物を開催した。 ・参加者：延べ609人
3	大規模特別展「埴輪が語る古墳の祀り」事業	7,386	7,386	古墳時代の政治の中心であるヤマト政権の大王墓と紀伊の首長墓などで執り行われた埴輪や土器を用いた古墳の祀りを紹介し、紀伊での古墳祭祀の時期的な変化やその意味に

ついて紐解く展示を行った。

・会期：令和2年10月3日～12月6日、入館者数：4,348人

VI 自然博物館費

1	教育普及展示事業	12,315	12,315
---	----------	--------	--------

自然博物館において、自然に関する知識を広く県民に普及させるため、特別展を1回、講演会を1回開催した。また、小・中学校や教育団体等を対象とした出前教室を8回（対象250人）、各種イベントを17回、ジュニア自然博アカデミーを6分野で実施した。

・年間入館者数 78,854人

県立学校教育課

I 教育連絡調整費

1	特別支援学校看護師派遣事業	65,612	59,840
---	---------------	--------	--------

医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が在籍する特別支援学校9校に看護師を派遣して、医師法の制限により教員が行えない医療行為等専門的な対応を行った。特に、対象幼児児童生徒の在籍が多い学校へは看護師の複数配置を行った。

2	国際人育成プロジェクト事業	136,844	134,484
---	---------------	---------	---------

「実践的な英語力向上」に向けた授業改善を目的に、高等学校の英語科教員を対象とした研修、高校生英語ディベート大会及びわかやま高校生クイズ in English等を開催した。

3	きのくに科学オリンピック事業	515	146
---	----------------	-----	-----

高校生を対象（参加：5校・12チーム）に科学や理数系分野への学習意欲の向上を図り、科学技術の発展を担う人材を育成することを目的としたきのくに科学オリンピックを開催し、「科学の甲子園」全国大会への出場校を決定した。一方、科学力向上ゼミ及びセミナーについては、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

4	就職支援プロジェクト事業	25,984	23,492
---	--------------	--------	--------

民間企業経験者10人を就職希望者の多い県立学校16校2分校に就職指導員として配置し、求人開拓、就職した卒業生の訪問、生徒への相談活動や社会人基礎力を身につけるための指導等を行った。

5	学習指導支援員派遣事業	1,610	949
---	-------------	-------	-----

若手教員等への学習指導等に関するスキルの継承を図るため、学習指導支援員を県立学校9校に派遣した。（延べ59人）

6	きのくにコミュニティスクール推進事業	3,538	2,305
---	--------------------	-------	-------

すべての県立学校に学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者等を委員に任命した。また、各協議会において、年間3回程度の会議を開催し、学校運営の基本方針の承認や課題解決のための具体的な手立てについての協議を行った。

7	きのくにICT教育事業	9,107	9,107
---	-------------	-------	-------

県内すべての公立学校においてプログラミング教育を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大のため教員研修、公開授業を中止したが、プログラミング教育支援員は希望のあった14校に派遣した。また、情報活用能力の育成に係る教材等を作成しWebに公開

した。

II 文化振興費

1	高等学校文化部活動支援事業	1,750	787
2	全国高等学校総合文化祭開催準備事業	72,009	68,918

県高等学校総合文化祭の開催費を補助することにより、生徒の相互交流と芸術文化活動の活性化、文化部活動の発表の場の確保など、高等学校文化部活動の支援を行った。第45回全国高等学校総合文化祭和歌山大会プレ大会として総合開会式、パレードの開会行事及び各部門大会を開催した。また、本大会実施に向け、大会PRイベント等の広報活動を行うとともに、各業務別委員会等を開催した。

III 体育振興費

1	全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会開催事業	1,912	1,219
---	-------------------------	-------	-------

新型コロナウイルスの感染拡大により大会が中止となったが、次年度の大会に向けての準備に対して補助を行った。

義務教育課

I 教育連絡調整費

1	「ことばの力」向上プログラム事業	608	277
2	国際人育成プロジェクト事業	27,344	25,740
3	学校図書館の充実事業	1,807	949
4	幼児教育関係職員研修事業	981	414
5	わかやまふるさと検定事業	2,695	2,692
6	幼児教育総合プロジェクト	5,352	4,757

児童生徒の「ことば」に対する興味・関心を高めるため、漢字の博士試験を実施した。また、学校司書の配置及びボランティアの活用を促進するとともに、学校司書等を対象に資質能力の向上を図るための研修を行った。さらに、県立図書館においても中高生読書まつりや手づくり紙芝居コンクールなど読書活動の推進、環境整備を進め、「ことば」に関わる総合的な施策を展開した。

教員の指導力・英語力の向上を図るため、小学校の教員及び中学校の英語科教員等を対象とした研修を実施した。また、英語への興味・関心の喚起と英語力の向上を図るため、公立中学3年生を対象に英語検定を学習指導に活用した。

学校図書館の整備充実と活用促進を図るとともに、県内の公立小・中・義務教育学校の学校図書館担当教員等を対象に研修会を実施した。

公私立の幼稚園・保育所・認定こども園の職員を対象に、その資質向上を図るため職種や経験年数に応じた研修や、保育者に必要なテーマを設けた研修会を実施した。

ふるさとへの愛着を高めるふるさと教育を推進するとともに、生徒がその学習成果を確かめる機会を提供するため、県内の中学生及び高校生を対象に、「わかやまふるさと検定」を実施し、県内の10,396人の中学生及び高校生が受検した。

幼児教育の質の向上を図るため、幼児教育アドバイザーを2人配置し、幼稚園・保育所

ト事業

7	きのくにICT教育事業	59,190	59,161	・認定こども園の巡回訪問により保育実践に対する助言を行った。また、幼児教育と小学校教育の連携及び円滑な接続を推進するため、幼児教育関係者と小学校教育関係者が集う研修会を県内6会場で開催した。 県内すべての公立学校においてプログラミング教育を実施した。また、授業等で教員のサポートを行うプログラミング教育支援員を希望のあった小学校139校、中学校40校に派遣した。
8	これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成事業	1,608	186	専門性を必要とする業務に従事する教職員の知識、技能を向上させるとともに業務の負担軽減を図るため、退職教員を登用した。
9	スクール・サポート・スタッフ配置事業	265,916	183,635	教員の事務作業等を軽減するため、小・中・特別支援学校160校にスクール・サポート・スタッフを配置した。

II 教育センター費

1	きのくに学力向上総合戦略事業	19,842	16,804	小学校4・5年生、中学校1・2年生を対象に国語、算数・数学及び理科（理科は、小学校5年生・中学校2年生のみ）の学習到達度調査を実施し、学習到達状況や改善状況を把握するとともに、「結果分析と指導のポイント」を各学校に提供した。また、「学力向上に係る小・中学校管理職研修会」を県内7会場で開催した。
2	きのくに学力定着フォローアップ事業	10,219	8,828	優れた教育実践力を持つ退職教員等をアドバイザー（34人）として、課題の大きい学校（42校：小学校28校・中学校14校）に派遣し、授業改善など学力向上の取組を支援した。

III 体育振興費

1	運動部活動推進事業	29,857	18,415	中学校の運動部活動に部活動指導員を77人派遣し、部活動の活性化と顧問教員の負担軽減を図った。
---	-----------	--------	--------	--

教育センター学びの丘

I 教育センター費

1	基本研修事業	14,001	12,594	小・中・高・特別支援学校の新規採用及び中堅教員並びに幼稚園等の新規採用及び中堅教員を対象とした研修を実施した。
---	--------	--------	--------	---

〔初任者研修対象者〕

校 種	拠点校方式		単独校方式		備 考
	学校数	人数	学校数	人数	
小学校	103	127	1	1	

校 種	拠点校方式		単独校方式		備 考
	学校数	人数	学校数	人数	
中学校	53	74	0	0	
高等学校	0	0	24	47	
特別支援学校	4	16	3	6	
計	160	217	28	54	内1校両方式重複

〔中堅教諭等資質向上研修対象者〕

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合 計
中堅教員	88人	53人	40人	28人	209人

〔幼稚園等教員研修対象者〕

区分	公立幼稚園	私立幼稚園	認定こども園
新規採用教員	7人	22人	62人

2 専門研修事業 3,033 2,600

教職員としての資質・能力の向上を図るため、校種、職種、教科、職務等に応じた研修を行った。また、長期研修として、教員が教育センター学びの丘で1年間、研究に取り組んだ。さらに、社会体験研修として、教員を社会教育施設、社会福祉施設等に1年間派遣し、資質・能力の向上を図った。

〔研修講座実施状況〕

講 座 数		39講座
受 講 者	小学校	933人
	中学校	589人
	高等学校	365人
	特別支援学校	156人
	計	2,043人

〔主な講座内容〕

- ・教育経営研修 ・主任等研修
- ・特別支援学級担当教員研修
- ・学校事務職員研修 ・各教科等研修
- ・特別支援教育研修 ・教育相談研修
- ・教職等専門研修
- ・養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員研修

3 学校支援・調査研究事業 2,429 2,133

学校支援事業として、県内の公立学校12校と3関係機関等に対し、授業力や学校力向上に係る研究支援を延べ66回行った。また、校内研修や個人研修等の充実に資するための動画研修パッケージを7本作成した。さらに、調査研究事業として、教員の授業力向上に資する「小学校中学校国語科授業研究会」「中学校高等学校外国語科授業研究会」を、3回ずつ実施した。

4 学びのセーフティネット事業 17,052 15,498

長期欠席児童生徒への学習支援のため、ICTを活用した個別学習支援を行った。

5 これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成事業 7,773 7,665

研修管理システムの導入により、受講履歴等の可視化を図り、各教職員の資質・能力の向上につながる仕組みを構築した。

業

教育支援課

I 教育連絡調整費

1	不登校等総合対策事業	399,929	365,998
2	教育相談推進事業	1,869	1,612

不登校・いじめ等問題を抱えている児童生徒の心のケアを図り、教員の資質向上及び各学校の教育相談体制を充実させるため、小学校155校、中学校111校、義務教育学校1校、県立高等学校46校及び特別支援学校11校にスクールカウンセラー等を配置し、小中学校の未配置校には、近隣の拠点校からスクールカウンセラーを派遣して対応した。また、スクールソーシャルワーカー等を30市町村（和歌山市は独自で配置）と県立高等学校15校に配置した。

児童生徒の心理的な諸問題や、特別な支援を必要とする子供の教育に関して、教職員等の相談に応じ、問題解決のために専門的立場から支援した。

〔年間教育相談実施状況〕

校種	小学校	中学校	県立学校	その他	計
相談件数	105件	68件	35件	3件	211件

3	学びのセーフティネット事業	35,154	21,062
---	---------------	--------	--------

不登校児童生徒等の学校復帰と学力保障のため、適応指導教室を設置する15市町に、不登校児童生徒等の自宅等を訪問し学習指導を行う訪問支援員を配置した。

II 保健体育総務費

1	保健体育・給食管理運営事業	167,945	44,619
			〔翌年度繰越額〕
			112,400
2	教職員児童生徒健康管理・健康指導事業	72,052	65,960
3	学校安全管理指導事業	131,039	83,347
4	学校を守る 地域を守る 防災リーダー育成事業	3,766	3,123
5	ストップ！スマホ・ゲーム依存事業	5,407	4,016

学校給食での県産品・ジビエの利用拡大を図るため、リーフレットを作成した。また、学校給食における安全安心の確保のため、学校給食用食品衛生検査を実施した。

児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図るため、心臓の疾病及び異常、結核、生活習慣病関連の健康診断を実施した。また、健康教育の推進のための研究大会等を開催するとともに、健康課題の解決に向けた研修会や協議会を開催した。

児童生徒の事故等に対応するための保険に加入するとともに、災害に対して給付金を支給した。

学校と地域の防災力アップのため、災害時に児童生徒を守る防災リーダー（管理職等）と地域の支援活動等の担い手となる高校生・教職員を育成した。

スマートフォンやゲームへの依存予防のための児童生徒及び保護者に対する教育・啓発を実施した。